

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	有限会社 コーブンシャ		
事業所名	グループホーム ほのぼの 平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町 78-12		
自己評価作成日	平成27年10月16日	評価結果市町提出日	平成28年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470201290-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成27年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員として、地域と支えあいながら、その人らしい暮らしが続けられ、本人がこれまで培ってきた地域社会との関係の維持を大切にしていきたいと考えています。また、「居心地のよい空間」「自信のもてる場所」であることを大切にしていきたいと考えています。日々の生活においても、本人が主体的な決定を行え、尊厳を保ちながら、安心して暮らせるような環境づくりに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の一角にあるが緑や畑が多い環境である。施設の向かいにはランドゴルフをしている広場があったりと、自動車の心配もなく1日散歩できる場所となっている。施設の建物は民家を改装しており、今時のホテルのような作りではないが、居室は広く開放的である。事務所・居間・食堂に扉は無く、職員と利用者の一体感があるアットホームな施設である。今回、外部から新しく着任された管理者に今後を託されており、新風が期待される。管理者は着任されてから2ヶ月であるが、施設の今までの経緯を良く把握し改善点や自分なりのアイデアもある。経験も豊富であり、利用者と職員にとって一番良い方法を実践する気概を感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事(ふるさと広場)の参加や散歩時での近隣住民との会話を通して、地域とのつながりを大切にしています	「ゆっくり、一緒に、楽しく」と大きく書かれた理念を、額縁に入れてリビングに掲げている。利用者がしたいことを優先して一緒に散歩したりしながら一日がゆったりとした時間が流れている。職員は笑顔で明るく利用者と過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一度の地域行事である「ふるさと広場」「長寿会」に参加し、近隣の同世代の方や子供たちと楽しく交流している	地域で月に1回開催している「ふるさと広場」に参加したり、近所のポストに案内状を配布して年に1回開催する交流会に20名ほど参加していただき交流を推進している。また、近隣から野菜の差し入れもあつたりする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時の地域の方との会話や、地域の行事でふれあう機会があり、いつでも相談できるような雰囲気作りに努め、その都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回「運営推進会議」を行っている。家族、区長、民生委員、行政、及び地域の近隣の方にも気軽に参加していただき、有意義な情報交換や家族の要望、意見を聞きサービスの向上に活かしている	以前は年6回開催されてなかったが、2ヶ月に1回きっちり開催されるようになった。会議には近隣住民の方やご家族、市の介護・高齢福祉課、包括支援センター、相談員、自治会長、民生委員、施設側役職者等多数が参加して様々な意見交換がされており、施設運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から問題が生じた場合には必ず連絡し、指導を仰いでいる。また、問題のない時も「運営推進会議」等で近況報告やサービスの取り組みを報告している	運営推進会議にも市側から出席して意見交換が良くされている。協力体制も出来ており、今まで入居されなかった2階の部屋に市からの紹介で1人入居が決まるなど良い協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職全員に対象となる具体的な行為を周知徹底し拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解は職員間でされているが、施設は民家を改造しており、事務室から玄関の人の出入りが確認できないので玄関の施錠が行われている。しかし、各部屋の扉やサッシの施錠はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力や虐待及び身体的精神的拘束は行わないという共通の認識を職員全員が持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、機会があれば擁護委員を招き積極的に勉強会をしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者が充分納得されるまで話し合いを持ち不安や疑問点が解決するまで説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者や家族とは何でも話せる信頼関係を築けるよう心がけているが意見箱を設置して苦情の申し出がしやすい環境作りに努めている	家族からの意見は意見箱より、かかりつけ医からの薬を届けて貰ったときに話したことや、連絡ノートに記載してることのほうが多い。それを職員全員が共有している。ただ、職員の意識としては、家族との関係がもっと強くなればと感じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者、管理者も交えたミーティングを行い自由に意見が言えるような雰囲気作りを努めそこで出た意見や提案を日々の支援に反映させている	日々の申し送りや、本社の担当常務が参加する月1回のミーティングで、施設での改善点や利用者へのサービス向上、職員の給与や待遇も含めた話し合いが行われている。	今回、職員が一度に数名退職する。待遇面の改善も関係あるが、職員同士の人間関係や協力体制がうまく進行される必要がある。そして良い意見や行為には先輩も後輩も関係が無い運営が大事である。その為の職員間の意見交換がし易い体制作りを早急に作る必要がある。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には日頃の状況を報告し、職員の要望や意見、やりがい等を理解してもらえるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者にはより良い日々のケアに生かせる研修や勉強会に参加できるような職場環境になるよう理解や協力を求めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、近隣施設が集まり「介護の手」を発足、連携しネットワークづくりや勉強会などの機会をもうけサービスの向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の困っていること、不安なことなど、思いを受け止め、安心されるまで話し合いを持っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時には十分な時間をとり本人や家族の不安や要望などに耳を傾け安心して入居できる関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞き、状況を把握し必要としている支援を見極め他のサービスも含めて説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見極め、一緒に進めたり、時には教わったりして、家族の一員として支え合っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮しているまた、施設での生活状況を伝えながら以前の様子もお聞きし、その人らしい生活をしていただけるよう配慮している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの知人等の面会などゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。また、馴染みの場所への外出にも支援している	帰宅支援や家族が利用者の居室でゆっくり食事できるように配慮している。本人の意向での外出を支援している。最近「ふれあい広場」が馴染みの場所になってきている。今後は、喫茶店や美容院などにお連れして、馴染みの場所を増やす努力を計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように席の配慮をしたり職員が間に入って良い関係が保たれるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好を楽しめるように配慮している。また思いに添った暮らしが出来るように常に本人と対話することで気持ちを聞き、興味関心などを探るようにしている	意思表示が出来る利用者が少ないが、日々の中で把握できた思いや意向を介護計画に反映したり、日々の暮らしに生かしている。また、地域との交流を増やしたり、役割作りをして生活に張りがあるように工夫している。タオルや雑巾を職員と一緒に作成したりして。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの生活環境などを詳しくお聞きし本人にとってどのようなケアが適切なのか職員間で話し合い見直しをして実践に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に合った生活のリズムを大切にして、体調の変化に留意し、変化があった場合は速やかに対応するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度また状況に応じて職員間でミーティングを行い、カンファレンスをして見直しがあれば変更する。面会時等、家族より意見などを聞き介護計画の作成に反映させている	毎月1度のミーティング時にカンファレンスとモニタリングをしている。出席者は、ケアマネと看護師、職員であるが、医師の所見を閲覧し介護計画に反映している。3ヶ月に1回の見直しだが、変化があればその都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に記録したり職員間の申し送りをしている。また、気づいたことや個々にケアしたいこと等は連絡帳に記入し情報を共有し実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状の急変時、家族の対応が難しい時には職員が受診に同行している。また、日用品購入の代行など柔軟にサービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の支援を受け「ふるさと広場」「長寿会」などいろいろな行事に参加し楽しんでいる。また、時々、外食して豊かな暮らしを楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員、月に2回の往診、年1回の健康診断を受けている。急変時にも対応可能であり24時間体制で連携をとっている	協力医の訪問診療が月2回ある。専門医・かかりつけ医には家族がお連れしている。協力医とは24時間相談ができる。しかし、緊急時には救急車にて救急病院に搬送する規定になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師が出勤している為個々の様子を伝えている。緊急時にはその都度連絡を取り対応してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院のケアワーカーと連携を取って情報交換に努めている。病院に出向き相談もしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については出来る場合、出来ない場合をいい入居時に話し合っている。また、入居時に他の施設の申し込みも同時にしていただくよう支援している	看取りを行わないことと車椅子の使用に繋がる重度化した場合に、車椅子の使用が困難である施設構造から特養への申し込みも同時にしてもらっている。重度化や終末期に利用者や家族に誤解のないようはっきり伝え、それまでの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の看護師に連絡し、応急処置の仕方、急変時の対応の指示をうけている。また、日頃からいろいろな急変や事故を想定し職員全員が対処できるよう話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で職員全員が安全対策を身につけ地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしており、内1回は消防署立会いである。備蓄に関しては施設としても不安を感じているが、まだ十分な食料の備蓄がされていない。	住宅が周りに多いにも関わらず災害時にご近所との連絡、協力体制が現在は無い。災害時に利用者の見守りをお願いしたり、施設を被災者の避難場所に活用したりする協力関係を作って地域との強固な付き合いが必要である。運営推進会議での話し合いが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを常に頭に置き挨拶や言葉かけには、丁寧な言葉使い、且つ温かみのある対応に心かけている。プライバシーに関しては利用者の人格を尊重し細心の注意を図り接している	特に注意しているのは声掛けの際の言葉使いである。利用者の人格や誇りを損ねないように配慮している。入居者の人数も現在5人なので家族的な雰囲気を大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに機転をきかせて行動し訴えには耳を傾けて出来るかぎり迅速に意に添えるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら支援し意思や主張を優先したうえで一人ひとりのペースを大切に過ごしていただけるよう心かけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調や目的に応じて自由に身だしなみやおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。施設での訪問理容もできるが、行きつけの美容院があれば利用できる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや旬のもの、行事料理等、皆さんと一緒に考えて調理している。昼食も一緒に会話しながら楽しい雰囲気になっている準備や後片付けも手伝っていたている	近隣の農家から差し入れしてもらった野菜などで食事のメニューを職員が考え、調理した物を提供して職員と一緒に食事している。月1回のお誕生日会の際には職員が工夫した特別食にしている。ケーキや茶碗蒸し、ちらし寿司などが提供されている。外食の楽しみとして「さがみ」に行ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して主食、副食は重ならないようにメニュー記録を見ながら栄養のバランスも考え、一人ひとりの状態に応じた量にしている。水分補給も随時行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりのできる力に合わせて、毎食後、歯磨き、義歯洗浄見守り介助で清潔にしているよう支援している。夜間は義歯は洗浄剤に浸けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し個々に応じて時間をみて声掛け見守りでトイレでの排泄の支援をしている	紙おむつの使用は無く、利用者全員が紙パンツを日中と夜間に使用してトイレ排泄が出来る。尿意を感じてトイレに自分から行ける方が2名、声掛け誘導が2名、尿意を感じる時と感じない時がある方が1名で、各自の習慣を生かした支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表を記入し、長期便秘の方には医師に処方された内服薬で調整している。食事や水分にも気をつけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2組に分けて1日おきに入浴している。本人の体調に合わせた支援を行っている	日曜日を除く1日おきの月水金に2名、火木土に3名が午前中に入浴している。入浴剤を使用したり、ジャグジーが好みの利用者にはジャグジーを使用して楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調や希望に合わせてTVを見るなどしてゆっくりとした休憩がとれるよう配慮している。夜間眠れない方には会話を持って安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬できるよう日にち、名前を記入し、必ず見守りのもと、確実に服用されたかチェックする。薬の準備は職員2名で確認する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話の中からお好きなこと得意なことを見つけ出し、一緒に行くことで楽しんだり、気分転換を図ってもらえるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日は毎日、その人に合わせた距離の散歩、買い物同行、季節に合わせた行事、外出支援を行っている。毎月の「ふるさと広場」にも外出している	天候が良い日には散歩を毎日出来るようにしている。全員での外出は計画的に行われており、外食や「ふるさと広場」、花見に行っている。他に個人的な外出支援としてお墓参りや葬式への出席も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は全員事務所で管理し必要に応じていつでも使えるように支援している。一緒に買い物に行かれた場合はご本人に支払っていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話、手紙の支援をしている。はがき、切手等は預かり金から購入している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた花などを共用の空間に飾り四季の変化を楽しみながら生活していただけよう工夫している。毎日できる方には掃除のお手伝いをさせていただき居心地よく過ごせるよう支援している	事務所と居間、食堂は区分けされているが扉が無く一望出来て利用者と職員が1つの空間にいつも一緒である。職員が目が行き届き易いのと利用者が職員に話しかけるのも容易な空間作りとなっている。ただ、廊下が狭いので車椅子が使用出来ないのと人がすれ違うのもきついのが難点となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の席が決めてあるが、様子を見て席替えをしたり、誰とでも楽しく会話ができるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には使い慣れた馴染みの物や思い出の物を飾り本人が居心地よく過ごせるように工夫している	利用者が1人で過ごす居室としては広すぎるくらい開放感がある。全面サッシの窓は採光も良く快適な空間である。大人数のご家族が来訪しても利用者と気兼ねなく1日ゆったりと過ごせるのは最大の特徴である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所には手すりを設置しており、安全に楽しく生活できるよう不備があれば直ぐ修理改善するようにしている。また、トイレや浴室など表示をしわかりやすくしている		